

平成4年3月27日

# 子どもの日記から見る学童疎開

## 豊島の集団学童疎開資料集「日記・書簡編3～長崎第二国民学校～」刊行

豊島区立郷土資料館(西池袋2-37)では、学童疎開中の児童の日記など疎開生活の実情を当時の子どもの視点から浮き彫りにする貴重な文献資料をまとめた調査報告書『豊島の学童疎開資料集(日記・書簡編3)』を刊行した。B5判・約180頁。同館において1部1,700円で有償頒布している。

この資料集には、当時、長崎第二国民学校(現・区立要町小学校)6年生で、山形県山形市の光明寺への集団疎開を体験した室生犀星賞・高見順賞受賞詩人・吉原幸子さん(59歳・新宿区在住)が記した1944年7月から45年9月にかけての日記がほぼ原文のまま収録されている。

豊島区立郷土資料館では、貴重な、かつ特異な歴史的体験の記録として、第2次大戦中の集団学童疎開についての調査・研究に積極的に取り組み、1987年に『さやうなら帝都勝つ日まで～豊島の学童疎開～』、88年にも『子どもたちの出征～豊島の学童疎開2～』と題した特別展を開催し、区内外から大きな反響を呼んだ。

この特別展の準備過程はもちろん、その後にも疎開体験者などから多くの関係資料の寄贈・提供を受けている同館では、展示や図録では部分的にしか紹介できない文献資料について、資料整理がすんだものから順次、関係学校や疎開先ごとにまとめ『豊島の学童疎開資料集』として刊行している。

今回の『日記・書簡編3』は、これまでに刊行された『日記・書簡編1～時習国民学校～』(1,300円)、『日記・書簡編2～長崎第五国民学校～』(1,500円)に続く第3集にあたる。

問合せ 郷土資料館